

<p>1 学校教育目標</p> <p>「健康・礼儀・努力・継続」 ～ 何事にも一生懸命頑張る船高生 ～</p> <p>(1) 自ら学ぶ力の育成</p> <p>(2) 心の教育の充実</p> <p>(3) キャリア教育の充実</p> <p>(4) 健康・安全教育の徹底</p> <p>(5) 開かれた学校づくり</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 授業の充実 生徒自ら考えて学習する態度を身につけることで、教科の魅力に触れその本質に迫る。</p> <p>(2) 人権教育 いじめを絶対に許さないという姿勢の徹底と、品格のある言語活動を行い、人権感覚の高揚に努める。</p> <p>(3) 道徳教育 規則で動き指示を待つ生徒でなく、自由と責任の重さを自分で考えて行動する自立した人間を目指す。</p> <p>(4) 安全教育の充実 ①交通ルールを遵守し、交通事故の防止に努める。 ②事故等発生時に適切に対応するため、危機管理マニュアルの共通理解に努める。 ③犯罪等に巻き込まれることを防止するため、個人情報や写真等をネット上に掲載しない。</p>
---

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実	<p>○入学者数充足率を昨年度比5%増加させる。</p> <p>○各種大会等での実績の向上を目指す。</p>	<p>・学科・コース別の体験入学及び個別相談会の内容を充実</p> <p>・HPの更新頻度をあげするための体制づくり</p> <p>・部活動の活性化と資格取得の奨励</p>	A	<p>○昨年度実施できなかった体験入学を実施したことに加え、個別相談会を計4回実施した結果、前期選抜出願者数は昨年度比23%増加した。</p> <p>○HPの更新回数が大幅に増加した。</p> <p>○マイコン制御部、書道部が全国大会出場した他、それ以外の部活動も全国レベルの好成績を収めた。</p>
	業務改善・働き方改革	<p>超過勤務時間の削減</p> <p>業務の効率化</p>	<p>○超過勤務時間の月平均25時間以下を達成する。</p> <p>○行事の精選及び業務内容の見直しを行う。</p>	<p>・毎月の超過勤務時間を衛生委員会で周知するとともに、当該教職員の業務の見直しを実施</p> <p>・部活動の週2回の休養日の確保の徹底</p> <p>・学校行事の簡素化及び授業時数の確保</p> <p>・次年度の取組を視野に入れた行事要項の作成</p>	A	<p>○毎月の衛生委員会で教職員の健康状況を含めた勤務状況を把握し、必要に応じて面談を実施することができた。</p> <p>○ひと月の超過勤務時間が3カ月連続して45時間を超える教職員数が前年度より減少した。</p> <p>●全教職員の超過勤務時間の月平均時間は27時間であった。</p> <p>○複数の学校行事等を組み合わせることで授業時数の確保ができた。</p>

学力向上	授業改善・授業力向上	生徒全員の「わかる」「できる」を目指した授業づくり	○授業ユニバーサルデザイン化に全ての教員が取り組み、ICT機器の活用経験90%以上を達成し、授業評価のICT活用の評価値を上昇させる。	・授業の共通取り組み事項を設定した授業のユニバーサルデザイン化にICT活用の視点を加えた授業研究週間の実施(年2回) ・ICT活用やAL型授業の研修の充実(年2回)と実践促進のための支援	A	○研究授業週間を2回実施し、全教科でICTを活用した研究授業を行った。 ○職員研修を2回実施し、その他授業支援を継続的に実施し、ICT機器の活用経験100%を達成した。 ○授業アンケートでは昨年同様に、教師、生徒共に高い結果となった。
	学力・学習力の向上	自ら学び続け、自己更新を続けることができる力を培う学びのサイクルの実現	○授業評価における、授業規律、学習への意欲、生徒間で話し合い考える協働的な学び、自分の考えを説明するなどの言語活動などの項目について、評価値を上昇させる。	・ICT活用による学習意欲の喚起、基礎学力の定着を図る授業展開、課題の工夫、学び直しの個別的支援、自ら一段階上を目指すような課題の設定と達成感・成就感を得られるための支援 ・「主体的、対話的で深い学び」の視点からICTを活用した授業の実施	B	○授業アンケートでは、特に「始まりと終わりの挨拶はチャイムどおりに行い、落ち着いて授業を受けている。」が3.75など授業規律の項目が非常に高い。 ●協働学習の項目が他と比較すると低くなっており、今後、コロナ禍の中で実施が難しかった協働学習の項目を高めていき、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを更に図る必要がある。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	進路意識の向上 体験活動の充実 進路情報の提供	○早期の進路目標の確立を目指す。 ○職業観・勤労観の育成を図る。 ○タイムリーな情報発信と閲覧環境の充実を図る。	・進路講座・講演会の実施 ・インターンシップや体験型イベント参加 ・進路だよりの発行やオンラインを活用した資料閲覧環境の改善	A	●講演会の実施時期を気温等の環境を考慮して検討する。 ○進路講座・講演会・インターンシップも予定通り実施できた。 ○求人票・受験報告書のオンラインでの閲覧が可能になった。
	進学指導の充実	多様な進路希望実現に向けた進学支援体制の充実	○3年生在籍数に対し大学進学率15%を目指す。 ○共通テスト等の新大学入試への対応を講じる。	・総合型(AO)・学校推薦型(推薦)対応の個別指導を充実 ・ポートフォリオ作成支援体制の充実	B	●20名受験18名合格の大学進学率10.9%である。(今後4名受験) ○AOや推薦入試等の対応は十分できた。 ○共通テストに備え参考書や問題集といった対策用の資料の充実を図った。
	就職指導の充実	マッチング 就職内定率の向上 就職意欲の高揚 内定者への指導	○希望就職内定率100%(特に県内就職率60%)を目指す。 ○キャリアサポーター・しごとコーディネーターの活用を進める。 ○早期離職防止策を講じる。	・適性の早期把握と事前指導の充実 ・企業の情報収集と県内優良企業の求人開拓 ・企業ガイダンス等への積極的参加 ・内定者フォローアップ面談	A	●就職内定率92.0% ○企業内定で就業地が県内の就職率82.9% ○1回目不調者に対しキャリアサポーターとの連携を図り、生徒のニーズに合わせた指導ができた。 ○企業から内定者への連絡等しっかりとフォローできている。
生徒指導	規範意識の醸成	基本的な生活習慣の確立と規律ある行動	○挨拶の励行を強化する。 ○交通関係の特別指導数を前年度の50%にする。 ○遅刻数を前年度の	・全職員による生徒指導、登校指導 ・原付通学者集会を定期的に開催 ・遅刻が続く生徒を対象	B	●職員が登校時に正門・昇降口で挨拶をすることで挨拶をする生徒は増えたが、年次が上がるにつれ挨拶する生徒が減る傾向にある。

			70%に減らす。	とした、生活習慣の記録及び改善計画の提出		○交通関係の特別指導は昨年度9件であったが、今年度2件に減少した。 ●前年度と比較して、遅刻数は116%と増加してしまった。
	交通安全意識の高揚	交通マナーの向上 交通事故違反防止	○自転車二重ロック100%を目指す。 ○自転車・徒歩通学生の重大事故をゼロにする。	・二重ロックの習慣化のため、継続的な点検の実施 ・警察との連携し、体験型安全講習会の実施	B	●二重ロック率は81%であった。 ○スタントマンによる事故再現交通教室を実施し、通学生の重大事故はゼロであった。
	自主性・社会性の育成	生徒会、委員会、部活動の充実	○学校行事の充実を図る。 ○部活動の充実を図り、中途退部者ゼロにする。	・生徒会主体の全校朝礼・体育祭・龍鳳祭、クラスマッチ等の充実 ・HPによる部活動紹介や戦績報告 ・部活動生による地域ボランティア活動への参加	B	○コロナ感染状況により、体育祭は無観客、龍鳳祭は有観客にするなど、制限のある中で実施することができた。 ●部活動への入部率は70%（運動部33%、文化部37%）だった。中途退部し再入部する生徒や別の部に入部する生徒もいた。
人権教育の推進	人権意識の高揚	人権問題解決に向けた実践力を持つ生徒・職員の育成	○人権教育LHR・職員研修の充実を図るため、これまでの取り組みを見直し再構築する。	・本校以外の学校や外部機関と協力し本校職員の意識の変革をもたらしたのち、生徒の実践力の育成	B	○人権子ども集会を全教室で視聴することができた。職員研修で部落問題の研修を実施した。 ●職員の研修機会の不足
	命を大切に作る心の育成	自他の生命と人権を尊重する心の育成	○外部機関と連携し、生徒の心を動かす講話を選定する。 ○他者を大切に思う人権教育を実施する。	・「SNSの使い方」、「自分の長所の発見」のほか、本校生徒に必要な教材の提供と人権教育・講話の実施	B	○1年2年生向けにSNSの使い方について授業を実施した。 ●生徒向けの講演会が実現しなかった。
いじめの防止等	いじめの未然防止	他人を思いやり、いじめを許さない態度の育成	○相手を尊重した行動や言葉づかいができるコミュニケーション能力の育成を図る。	・ソーシャルスキルトレーニングの定期的な実施によるいじめの未然防止	B	○SSTのLHRを計画通り実施できた。 ●幼い言動で相手を傷つける事例が少なくない。
	指導体制の確立	いじめ防止対策委員会を核とした組織的取組	○いじめの早期発見と早期的確な対応に努める。 ○いじめ事案の解消に向け、組織的に取り組む。	・いじめ事案について丁寧な調査の実施 ・解消後の経過観察による再発防止	A	○被害者本人からだけでなく友人や職員からの気づきで早期発見ができた。 ●いじめが疑われる事案が職員間で共有できていないケースも見られた。
地域連携(GS等)	総合型CSを核とした地域連携	地域と連携・協働したコミュニティスクールの確立	○総合型学校運営協議会として、地域の教育資源を活用した教育活動を実践する。	・地域を教材とした学習活動やキャリア教育の推進、中高大が連携した学習支援体制の構築	B	○学校評価アンケート結果では各項目で一定の成果があった。 ●コロナ禍の影響で教育向上のために具体的に取組み検討する機会が十分にもてなかった。
特別支援教育	的確な個別の支援	支援体制の整備と合理的配慮の提供	○迅速な実態把握と校内支援体制の充実を図る。	・該当生徒の情報共有と共通理解の推進 ・支援計画の的確な目標設定及び確実な評価	B	○支援計画は作成できた。 ●教育活動の様々な場面での具体的な支援が十分とはいえない。
環境保健	健康管理・健康教育の充実	自己管理意識の向上、心身の健康の保持増進支援	○新型コロナウイルス対策を継続し、校内での感染の広がりを防ぐ。 ○健康診断事後措置及び既往者の個別指導の徹底を図る。	・マスク、消毒等基本的予防策の継続出停の把握及び感染症システムの徹底 ・検診事後措置について啓発。既往者等の定期的な健康面談を継続	A	○1クラス学級閉鎖があったが他は大きな流行はなかった。システム入力はできた。 ○既往者面談は実施できた。 ●例年行っていた歯科未受診者指導が他業務等でできなかった。

	環境整備	環境衛生・エコ実践 向上、安全管理	○環境美化への行動 化を進める。  ○事故防止、安全管 理を徹底する。	・美化コンクールによる 教室等の美化意識の向 上 ・安全点検の徹底。学校 管理下の負傷と施設面 の関係について確認	A	○美化コンクールは予定通 り実施できた。掃除に皆 で取り組むよう継続す る。 ○安全点検は未提出者に呼 びかけ徹底を図った。体 育館2階梯子は使用禁止 とした。
--	------	----------------------	---	--	---	---

#### 4 学校関係者評価

令和5年度学校運営協議会委員の皆様からのいただいた意見は以下のとおりである。

- (1) 広報活動の充実について
  - ・書道部のパフォーマンスは広く知られるようになり、御船高校の広報に大きな役割を果たしている。生徒たちの活動をマスコミ等を活用して広く地域に知らせることの大事さを思う。
  - ・HPの情報更新頻度を更に進めてほしい。
- (2) 地域との連携について
  - ・御船町の文化祭に書道・美術と時間を割いて素晴らしい作品群を展示いただき、ありがとうございました。引き続きお願いしたい。
  - ・部活動や生徒会と地域との交流は現在行われている。今後それ以外の生徒たちとの交流が増えることを期待する。
  - ・中高連携を今後一層推進していきたいので、ご協力をお願いしたい。
- (3) その他
  - ・コロナ感染を予防するために活動の実際を見聞することができないのを残念に思う。
  - ・体育の授業で校外を走る生徒たちを見る機会があり、個々の力に応じた取り組みとなっているのがいい。また、安全を考慮して教員がコースに立って目配りしている様子を見て安心した。
  - ・大学や企業等と連携した取組の実績・認知が高まれば、経験の蓄積のみならず、学校としての先駆性のPRにもなると思う。
  - ・卒業後の進路の選択肢が本人が思っている以上にたくさんあることを理解してもらえる教育を一部取り入れてほしい。

#### 5 総合評価

学校評価における評価項目全18項目のうち、「よくできている」とするA評価は8項目、「だいたいできている」とするB評価が10項目であった。各校務分掌が課題意識をもって学校運営に取り組んでおり、本年度の学校目標は概ね達成されたといえる。

- (1) 授業の充実
 

ICT教育研究部を中心に年2回の職員研修を実施したことで、職員のICT教育に関するスキルは着実に向上している。また、学校評価アンケート（生徒、保護者）の「本校は、学力向上のためにわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。」の項目ではそれぞれ3.2、3.1と前年度よりも評価が上昇しており、職員研修を実施した効果が表れている。
- (2) 人権教育
 

運営委員会で生徒の情報共有を図り、年間を通しSCやSSWを活用した継続的な支援及び関係部署に必要な指示を出す等の迅速な対応を行ったことで問題の早期発見、早期解決に繋げることができた。また、人権子ども集会の動画を全クラス視聴したり、人権に係る職員研修をグループ別研修にしたりするなど工夫を凝らした。その結果、学校評価アンケート（生徒、保護者、職員）の人権教育に係る項目の評価がいずれも前年度から大きく上昇している。
- (3) 道徳教育
 

学校評価アンケート（生徒、保護者）の校則や社会のルールに係る項目の評価結果については、生徒は前年度並みの評価であるが、保護者は若干下がっている。また職員の評価と生徒の評価には大きな隔りがある。
- (4) 安全教育の充実
 

学校評価アンケートの交通安全に関する項目については、保護者及び職員の評価は前年度より上昇している。しかし学校関係者の評価は他の項目に比べて低い。

#### 6 次年度への課題・改善方策

- (1) 授業の充実
 

コロナ禍で実施することが難しかった協働学習への取り組みを充実させ、「主体的・対話

的で深い学び」を実現する授業づくりを更に進める。

(2) 人権教育

日頃から生徒の言動に注意を払い、いじめは絶対に許さない風土を築くとともに、いじめが疑われる事案が生じた際には職員間ですぐさま情報を共有し、学校全体で組織的に対応する。また、職員も日頃から言動に注意を払い、互いに注意し高めあることのできる関係づくりに努める。

(3) 道徳教育

学校のあらゆる教育活動の中に、生徒が人間としての在り方生き方を考える場面を設定することで、心の教育の充実と学校おける仲間づくりに配慮した教育活動を推進する。

(4) 安全教育の充実

大きな交通事故はなかったものの、地域の方々から本校生の交通マナーについて御意見をいただくことがある。地域の学校として、学校運営協議会委員の方々の御意見も参考にしながら、交通指導の徹底を図る。